

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和4年2月15日（火） 16時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 三重県高校生ビジネスプランコンテストを開催します
- ・ 『STOP!いじめ』紙芝居」読み聞かせ上演会を実施します

発表項目

○三重県高校生ビジネスプランコンテストを開催します

本日2点発表いたします。

1点目は、三重県の高校生のビジネスプランコンテストを開催するというものです。

概要ですけれども、本年度、県教育委員会では「マナビバミエ若き起業家育成事業」ということで、新規事業として取り組んできました。その発表の場として、ビジネスプランコンテストを開催いたします。高校生が将来、起業したり、就職先で新たな事業を提案したりする力を育むために、起業家の方とか経営者との話し合いの活動によって、高校生ならではの発想を生かしたビジネスプランを作成いたしました。

参加した生徒は、8チーム28名の生徒が、6月20日から、身近な困りごと、あるいは社会や地域の課題を解決しビジネス化するアイデアを考えて、サポーターの助言も得ながら、収支決算も含めてビジネスプランを構築してきました。

学校として取り組んだ津商業高校3チーム5名も参加して、2月20日（日）ですけれども、13時00分から18時30分までビジネスプランコンテストを実施いたします。

場所は、アスト津のアストホールですけれども、コロナの関係で生徒は学校や自宅からオンラインで参加をいたします。

内容は、チームごとに5分間プレゼンをいたしまして、そのあと9分間、質疑応答の時間を設けております。

最終的に表彰ということで、最優秀賞、優秀賞、特別賞、敢闘賞の表彰を行います。最優秀賞と優秀賞のビジネスプランは、実際に企業の方に提案をして、できるだけ実現化に向け、高校生と企業が協議を進めるということにしております。

テーマとしては少し見ていただきますと、就職活動支援アプリ（Job Hunt）というのを作って離職を減らしていくとか、エリアマゴ、マゴはお孫さんの孫なんですけども、小学校高学年をターゲットに、お年寄りの見守りサービスということで、お年寄りが出資して、誰かの孫に数日間なることで笑顔の輪を増やすというものです。

3点目は、「パズルジェル」ということで、高校生とかデスク作業が多い大学生、社会人

に、目や手足のケアで使える保冷剤を開発するというものです。

4点目は、「もったいないをなくそう地域産物商品化計画」ということで、規格外野菜を加工してゼリーやプリンにして廃棄を減らそうというビジネスプランです。

5点目は、歯磨き体験とかができるイベントとか、歯の矯正費用の後払いサービスなどで、子育て応援とか、子どもたちのアイデアを生かせる社会をつくるというものです。

6点目は、移動を快適にするためのモビリティサービスを実現して、住みよい魅力的な町をつくるというものです。

7点目は、「カスタムヘアオイル パーソナライズ」ということで、自分好みにカスタマイズできるというものです。

8点目は、金融とか税の教育など「安全安心なおトナになる高校生Life」です。

9点目が、美術大学向けのクラウドファンディング型の奨学金です。

10点目が、保護犬・保護猫と触れ合って、高齢者の孤独感を解消するというものです。

その次が、「真珠だけじゃない！ゴミの出ない三重のアコヤガイ」ということで、貝殻を粉にしてネイルの下地とか絵の具材料として再利用しようというものです。

最後が、「まだ着れる制服は再利用しよう！」ということで、制服販売のあり方とかアパレル業界で引き起こしている環境問題に切り込もうというものです。

審査員は、雲井さんはじめ、5名の方をお願いしております。

これについては以上です。

○ 『STOP! いじめ』紙芝居」読み聞かせ上演会を実施します

2点目が、『STOP! いじめ』紙芝居」読み聞かせ上演会を実施するというものです。社会総がかりでいじめの問題を克服して、いじめ防止の気運の醸成を図るという目的のもと、今年度、県内の中学生と高校生が、専門家の指導と助言を得て、いじめ防止をテーマとする小学生対象の紙芝居「とびだしたスーパーボールちゃん」というのを創作いたしました。その創作した中学生、高校生が小学校を訪問し、読み聞かせ上演会を開催するというものです。

日時は、3月10日に川越北小学校の2年生、3月14日に川越南小学校の2年生です。紙芝居の内容はちょっと後ろの方に、実演はできてないんですけども、紙芝居を持ってきますけれども、すべて12枚で、小学校低学年の児童にまず興味を持ってもらうにはということで、中高生の子たちが話をしてもらって、主役はスーパーボールということで、ボール小学校という設定のもとで、いろんなボールでキャンプに行くということで、その中で主役のスーパーボールちゃんもウキウキしてバスに乗って出発したんですけども、押し合っただけでバスが揺れたので、スーパーボールが椅子から落ちて弾んでしまい、みんなから「ふざけんな」とか「跳ねすぎて、むかつく」とか、そうこうしていると窓から押し出されて、その後、外で自由にしている方が楽しくなって、いろんな出会いがあって、例えばリンゴとミカンからは「一緒に木にぶらさがらないか」とか言われたり、あるいは逆にゴルフをしているタコ

に「へたくそね」とかいうような嫌なことを言ってしまったたり、夜になって月からは、「飛び跳ねられて、うらやましい」と言われてうれしくなったりして、その後キャンプファイヤーが見えたので、キャンプ場のみんなのもとへ帰って、少し言い過ぎてごめんねとか、何があったのかそんなことを話しながら、12枚目のキャンプの内容が終わってるということなんです。

3番目のところで、完成までの取組ということで、中高生9人のメンバーで活動して6回のワークショップを今まで開催してきました。特に2回目の8月4日に、いじめの問題についてのグループ討議ってことで、この生徒たちがかなり時間をかけて話し合っております。その後6回を経て、メンバーからのメッセージとしては、やっぱりいじめがいけないってことは皆がわかっていると。でも、いじめが起きると。そういうのをなぜっていうのを話し合う中で、やっぱりいじめている人がそのことに気づいてないってことも原因の一つではないかという結論にたどり着いて、これをテーマに紙芝居を作ってくれました。この紙芝居を見て、もしかしたら自分の言葉とか行動がいじめかもしれないっていう思いを持ったり、いじめられている人を助けられるようになっていたりして欲しいということで、自分たちもいじめに気づき止められるような行動をしていきたいというメッセージがあります。

この上演後、小学生は、紙芝居から感じたことや考えたことをまとめて発表し合うということで、いじめの理解を深めます。中高生は、小学生との交流を通じて、いじめ防止の意識をさらに高めたいというふうに考えております。

支援いただいた専門家として、増田喜昭さん、つつみあれいさんです。感染状況によってはオンラインで行います。それから、この紙芝居は、保育実習を行っている県立学校でありますとか、読み聞かせを行う図書館等で活用できるよう配布をいたしますとともに、県教育委員会のホームページにも掲載をいたします。

また、3ページ以降にそれぞれのナレーションとか意図を書いてありますので、またご覧いただければと思います。

私からは以上です。どうぞよろしく願いいたします。

発表項目に関する質疑

○三重県高校生ビジネスプランコンテストを開催します

(質) まずこのビジネスプランコンテストのことなんですけれども、新規ということで、初めてやるということかと思うんですが、まずこの実際に提案内容を見てみると、非常に地元の資源を使ったようなものであったり、面白いなと思ったんですけど、提案内容の特徴と言いますか、その部分についてどういうふうに受け止めていらっしゃるか、お聞かせいただけますか。

(答) この事業に生徒が自主的に応募してもらって、それで地元で活躍している起業家とか、専門家の方から話を聞きながら進めていってもらったんですけども、本当に生徒が身近で感じたり、あるいは周りの人を見て、こういうことを困ってるとかありましたけれど

も、制服のことを通じて、やっぱりその衣料も環境負荷が進んでいるっていうことの報道もありますし、本当にそういったこれからのSDGsも含めた、こういう持続可能な社会を自分たちでどういうふうに作っていくかっていうことについて、本当に真摯に考えてもらって、どれも素晴らしい内容だなんて私としては思っています。

(質) 実際に今後は企業に提案してということですけども、これはどういうふうな企業を想定してらっしゃいますか。県内に拠点がある、本社があるような企業というイメージですか。

(答) そうですね。12の提案の中で、どの提案が最優秀・優秀、最優秀1点、優秀が1点ということ想定しておりますけれども、その内容によって、私どもの方であったり、あるいはこの事業そのものを委託しているところもありますので、そこと連携して、そのテーマに即して、できれば地域とか地元の関係する企業の方々にまず話を聞いて、実際にプレゼンしてもらえようになったらというふうに思っております。

(質) そういう意味では、前提として地元の企業を中心にといいいますか。

(答) そうですね。

○ 『STOP! いじめ』紙芝居」読み聞かせ上演会を実施します

(質) あと、2番目の発表の紙芝居の方なんですけれども、ひょっとしたらもう参加した9人の方の公募をするようなリリースなんかやってるのかなと想像したところなんですけど、この参加した9人の方というのは、これはどういう子どもたちとか生徒さんたちなんです。募集して手を挙げてきた子たちということですか。

(答) そうです。こういうことをやるのでということで、自ら手を挙げていただいた生徒です。

(質) あと細かいところになるんですけども、取組3番目の「完成までの取組」のところ、1回目から6回目ですけど、普段、だいたい毎回どれぐらいの時間をかけて議論をしていて、その中で「特に8月4日については非常に時間をかけていじめについて話し合ったことですよ」とか、他の時に比べて8月4日はどれぐらい時間をかけていじめについて話し合ったのかという、ちょっと具体的な時間的な目安をお伺いできますか。

(答 生徒指導課長) 大体1回のワークショップは2時間ですけども、最後の方にはちょっともう時間が足りなくなってきた、午前2時間、午後2時間というような時間設定でそれぞれ活動しました。

(質) この8月4日については。

(答 生徒指導課長) 8月4日も同じく2時間ということです。

(質) そういう意味では時間としては、いじめについて話し合うのは同じ時間をかけてということになるんですかね。

(答 生徒指導課) 話し合った時間は8月4日だけではなくて、実はもう第1回から、全部で6回中3回ぐらいまでは、もう本当に時間をかけて話し合いをしたんです。特に8月4

日はもう終始話し合いの場で終わったという内容になります。

(質) それが反映されたような形で。ストーリー自体ももう始めから脚本は子どもたちが考えたということですか。

(生徒指導課) そうです。ゼロから考えました。

○三重県高校生ビジネスプランコンテストを開催します

(質) ビジネスプランコンテストの発表の方法はどのような、なにかパワポみたいのを作って説明するとか。

(答) そうですね、パワーポイントで、生徒たちはそれぞれ自宅から参加したり、学校から参加したりするんですけども、1つの発表、テーマに対して、パワーポイントの資料を作成して、それを数人が5分間で発表するという形式になります。

(質) 当日は質疑応答というのは、誰から誰に対して。

(答) この2ページの審査員の方5名で、この会場で見させていただいて、この方々から発表している生徒に対しての質疑応答となります。

(質) 生徒同士がではなくて。

(答) そうですね。

(質) 審査員の方と発表した生徒さん。

(答) そうです。

○『STOP! いじめ』紙芝居」読み聞かせ上演会を実施します

(質) 紙芝居の方で、製作された9人の生徒たちですけども、学校はそれぞれ別になるんですか。集まった時はどこでやってるんでしょう。

(答 生徒指導課長) 中学生が5名、高校生が4名です。中学生は四日市市立の常盤中学校と、川越中学校、津市の一志中学校です。高校生は、川越高校と四日市南高校と私立の暁高校の以上9名なんですけれども、活動する場所は川越高校で活動しました。

(答) 北勢の生徒たちが多くて、1人は一志中学の子なんですけれども、その生徒はそちらに行って、はい。

(質) すみません。その関係で、「4 上演後の取組」っていうところで、中高生と小学生の交流を通じてっていうところがあると思うんですけど、これは当日、3月10日と14日にその中高生が来るのか、また別で設けるのか、そのあたりはいかがでしょうか。

(答 生徒指導課長) それぞれの10日と14日のそれぞれに、創作した中高生9名おりますけれども、分担をしてそれぞれの小学校に出向いて講義をすることになっております。

(質) 当日行けば、その場に中高生も全員じゃないにせよ、いらっしゃるということ。

(答 生徒指導課長) はい。

(答) 我々としては、やっぱり作った中高生は、自分たちがすごく話し合っ、小学校低学年にこういう気持ちを持ってもらいたいということで創作してくれたんですけども、

小学生から見た時に、それをどういうふうに受け止めて、どんなふうに分たちは感じたかということで、またそれで中高生も自分たちも小さい頃こう感じたとか、もう少しこういうふうにしていこうとかっていうことを、それぞれ高め合ってほしいなと思って、その時間も大切にしていきたいなと思います。

(質) 時間を45分それぞれ取っていらっしゃるんですけども、その中で、紙芝居の上演プラス講演というか。

(答) 紙芝居はどれぐらいですか。

(答 生徒指導課長) 紙芝居は通常、我々が読むと、5分から10分、ゆっくり読むと10分かかると思います。

(質) 3月10日までに9人が一堂に会するものってないんですか。

(答) どうですか。

(答 生徒指導課長) 当初は、3月5日の日に、もう一度この川越高校で一度に集まって、10日、14日の上演会に向けて打ち合わせをする予定だったんですけども、まん延防止が6日までになりましたので、5日の日はオンラインでそれぞれ打ち合わせをするようになっております。

(質) ちょっと紙芝居の方なんですけど、この参加した中学生とか高校生の子たちは、何かこう、どういう興味・関心からこのプロジェクトに参加したとかっていうものは。

(答 生徒指導課長) すべての学校に公募をかけたんですけども、この参加した生徒には例えば演劇部であったりとか、またそのいじめに関する興味とか取組に関心があった生徒もいると思いますが、それ以外にもこの紙芝居自体に興味を持って取り組んだ生徒も多いと思います。両方あったかと思います。

(質) 細かいことなんですけど、脚本とかストーリーは全部この生徒さんたちが作ったという話ですけども、スーパーボールを主役にしたことの、そのねらいというか、その思いみたいなものっていうのは何か説明しておられますか。

(答 生徒指導課長) まず、スーパーボールという男の子でも女の子でもないというようなキャラクターにしております。これは、中性的なキャラクターに設定することで、聞き手の小学生が、誰もが自分事として考えられるようにしております。それから、身近なもので、実物で、スーパーボールは巷にありますので、それを実際に手に取って、実際に示しながら、小学生の興味を高めてから、紙芝居に入れるようにという形で、ちょっと詳しい状況はわかりませんがスーパーボールを一つのキャラクターにしました。

以上、16時50分終了